

トルコ・ボンド・オープン（年1回決算型）

足元の運用状況と今後の見通し

2021年12月22日

平素は、当ファンドをご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

足元の運用状況や今後の見通しについてお知らせいたします。

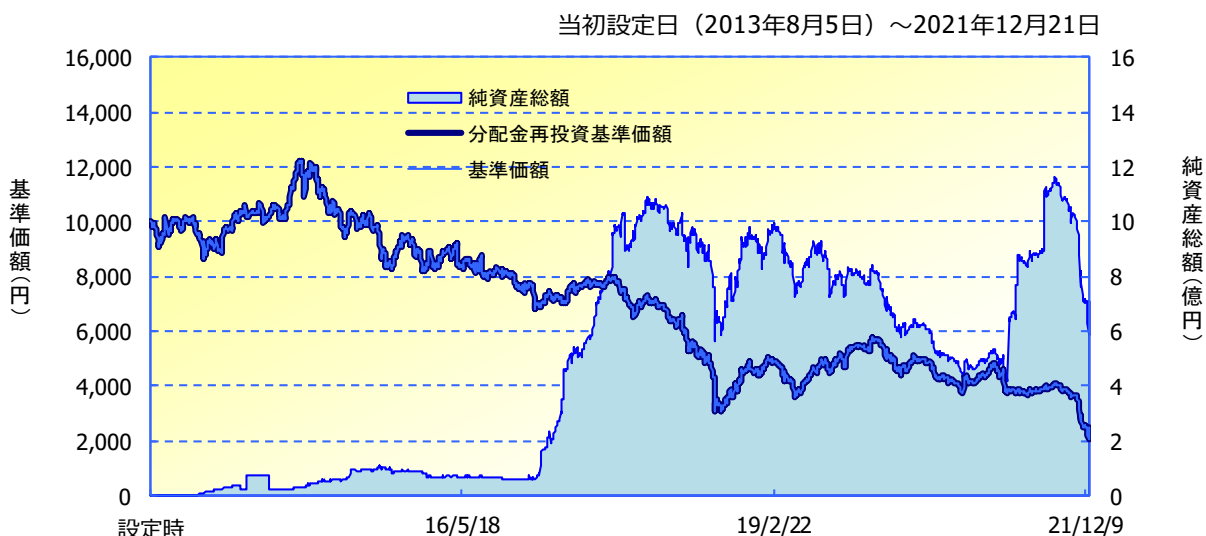
債券価格や為替の下落により、基準価額は下落

2021年8月末から足元までの約4カ月間をみると、トルコの債券価格は下落（金利は上昇）しました。トルコでは、高インフレが続いているにもかかわらず、トルコ中央銀行によって9月、10月、11月、12月と4カ月連続で利下げが実施されたことで、トルコの金融政策に対する市場の信認が低下し、債券価格は下落しました。また、足元では政府が最低賃金を50%引き上げると発表したことも嫌気され、債券価格の下落に繋がりました。

為替についても、利下げが実施されたことに加え、エルドアン大統領がこれまでのトルコ中央銀行の利下げを擁護しその継続を表明したことやトルコ・リラ安を容認する発言をしたことなどから、下落しました。なお、12月20日（現地、以下同様）に、エルドアン大統領が外貨に対するトルコ・リラの下落が銀行金利を上回る場合には政府が補填するという新たな政策を導入することを発表したことで、トルコ・リラは急反発しています。

■ 基準価額・純資産の推移（2021年12月21日現在）

基準価額	2,482 円
純資産総額	710百万円



※「分配金再投資基準価額」は、分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものです。

※基準価額の計算において、運用管理費用（信託報酬）は控除しています（後述のファンドの費用をご覧ください）。

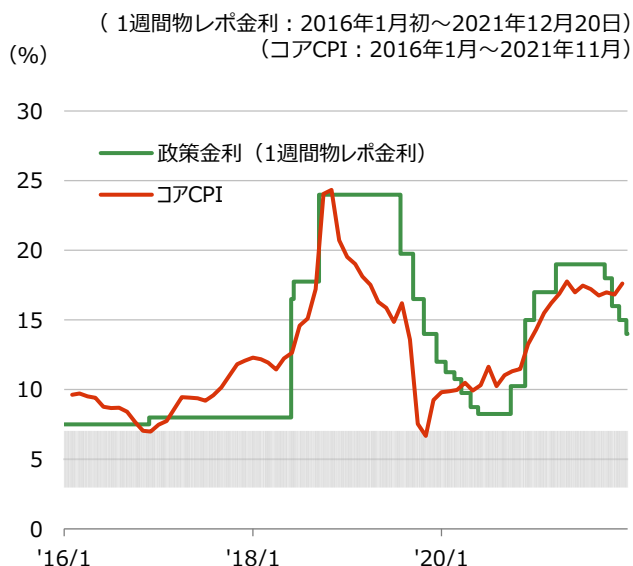
※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

債券市場や為替市場は不安定な動きが続く見込み

トルコのエルドアン大統領は従前から景気刺激のために利下げを強硬に求めており、度々利下げの必要性を強調するなど、その姿勢を改める気配はありません。また、12月19日には、イスラム教の教えを根拠としてトルコ中央銀行に利下げを継続させると表明しました。高インフレが続くトルコにおいては、利上げを実施してインフレを抑制するような金融政策を採る必要があると考えられますが、自らの考えに沿わない人物は更迭するエルドアン大統領による圧力に屈し、トルコ中央銀行は利下げを続けました。そのため、トルコの金融政策に対する市場の信認が低下し、債券や為替の下落に繋がりました。そして、為替の下落による輸入物価の上昇は、さらなるインフレ率の上昇を招きました。

今後について、トルコ中央銀行は12月16日に開催された金融政策決定会合の声明文で、「限られた政策余地を使い切ることを決定した」と、9月から4会合続いた利下げサイクルの中断を宣言しましたが、その後、上述のとおり、エルドアン大統領が利下げの継続を表明していることから、今後も利下げの可能性は残ります。そのため、トルコの債券市場や、新たな政策の導入が発表されたことで一旦は反発した為替市場においても、当面の間、不安定な動きは続きそうです。債券市場や為替市場が安定化するためには、インフレが落ち着くか、トルコ中央銀行が利上げを実施し金融政策に対する市場の信認が回復する必要がありますが、実現するかは不透明な状況です。

政策金利とコアCPI（消費者物価指数）

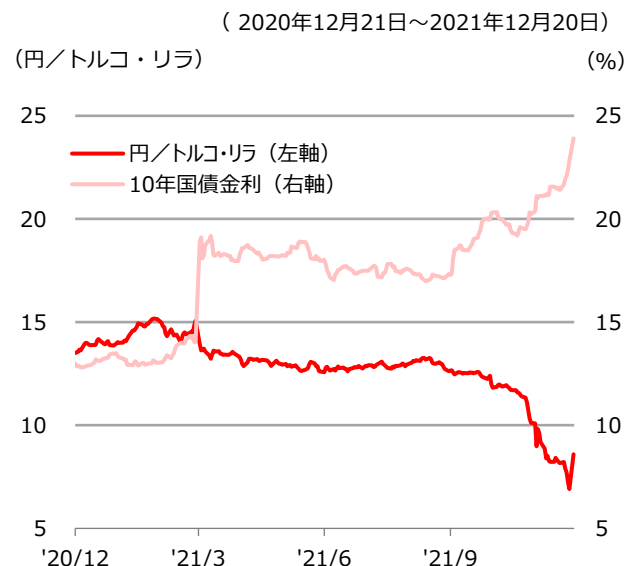


※コアCPIは前年同月比

※陰影部はトルコ中央銀行によるインフレ目標のレンジ

(出所) ブルームバーグ

国債金利と為替



(出所) ブルームバーグ

Ⅰ ファンドの目的・特色

ファンドの目的

- トルコ・リラ建債券に投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。

ファンドの特色

1. トルコ・リラ建債券に投資します。
 - ◆投資対象は、トルコの政府および政府関係機関ならびに国際機関等が発行する債券とします。
 - ◆金利や物価の動向、経済情勢や市場環境等を勘案し、ポートフォリオを構築します。
 - ◆債券の運用の一部は、ダイワ・アセット・マネジメント（ヨーロッパ）リミテッドが行ないます。
 - ◆外貨建資産の組入比率は、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。
 2. 当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ないます。
 - マザーファンドは、「トルコ・ボンド・マザーファンド」です。
- ※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

Ⅰ 投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。
「公社債の価格変動（価格変動リスク、信用リスク）」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」
※新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。
※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。
※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。
- トルコ市場における債券投資に関する留意点
トルコ共和国における宗教上の休日の時期にあたる場合、10日間（休業日を含みます。）以上にわたり当ファンドの購入・換金のお申込みができない日が続く場合があります。

Ⅰ ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 〈上限〉 3.3% (税抜 3.0%)	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 (信託報酬)	年率 1.474% (税抜 1.34%)	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
その他の費用・ 手数料	(注)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご覧ください。

設定・運用：

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

商号等

大和アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号

加入協会

一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメント株式会社が作成したものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認くださいのうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆さまの実質的な投資成果を示すものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。記載する投資判断は現時点のものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料中で個別企業名が記載されている場合、あくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。
- 分配金は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

トルコ・ボンド・オープン（年1回決算型） 取扱い販売会社

販売会社名（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
株式会社足利銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第43号	○	○		
株式会社熊本銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第6号	○			
株式会社京葉銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第56号	○			
株式会社清水銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第6号	○			
株式会社十八親和銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第3号	○			
ソニー銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第578号	○	○		○
株式会社福岡銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第7号	○	○		
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○	○		○
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○	○		○
内藤証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第24号	○			○
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○	○		
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

上記の販売会社については今後変更となる場合があります。また、新規のご購入の取り扱いを行っていない場合がありますので、各販売会社にご確認ください。